



平成 17 年 3 月期 第 1 四半期財務・業績の概況(連結)

平成 16 年 8 月 2 日

上場会社名 株式会社エヌ・ティ・ティ・データ

(コード番号: 9613 東証第一部)

(URL <http://www.nttdatas.co.jp/>)

代表者 役職名 代表取締役社長

氏名 浜口 友一

問合せ先責任者 役職名 総務部株式担当部長

氏名 加藤 雅之

(TEL: (03) 5546-9962)

1. 四半期財務情報の作成等に係る事項

会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無 : 有

(内容)

固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産 … 年度見込み額のうち当四半期分を計上しております。

(2) 無形固定資産 … 年度見込み額のうち当四半期分を計上しております。

法人税等の計上基準 … 法定実効税率をベースとした年間予測税率により計算しております。

その他影響額が僅少なものにつき、一部簡便的な手続きを用いております。

最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無 : 無

連結及び持分法の適用範囲の異動の有無 : 有

(内容)

16 年 3 月期比 連結(新規)1 社(エヌ・ティ・ティ・データ・ワイヤ株) 持分法適用会社 異動なし

2. 平成 17 年 3 月期第 1 四半期財務・業績の概況(平成 16 年 4 月 1 日～平成 16 年 6 月 30 日)

(1) 経営成績(連結)の進捗状況

(注) 記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

	売上高	営業利益	経常利益	四半期(当期)純利益
17 年 3 月期第 1 四半期	百万円 195,019 17.2	百万円 11,073 3.5	百万円 11,419 18.9	百万円 7,453 51.2
16 年 3 月期第 1 四半期	166,423 -	10,696 -	9,600 -	4,927 -
(参考)16 年 3 月期	846,705	59,725	49,638	26,956

	1 株当たり四半期(当期)純利益	潜在株式調整後 1 株当たり四半期(当期)純利益
17 年 3 月期第 1 四半期	円 2,657 12	円 -
16 年 3 月期第 1 四半期	1,756 83	-
(参考)16 年 3 月期	9,578 34	-

(注) 売上高、営業利益等におけるパーセント表示は、対前年同四半期増減率を示しております。

(2) 財政状態(連結)の変動状況

	総資産	株主資本	株主資本比率	1 株当たり株主資本
17 年 3 月期第 1 四半期	百万円 1,017,574	百万円 464,274	% 45.6	円 165,516 93
16 年 3 月期第 1 四半期	1,019,099	438,572	43.0	156,353 75
(参考)16 年 3 月期	1,065,549	458,846	43.1	163,549 89

【連結キャッシュ・フローの状況】

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
17 年 3 月期第 1 四半期	百万円 66,937	百万円 8,050	百万円 2,981	百万円 125,698
16 年 3 月期第 1 四半期	35,390	40,405	47,975	37,988
(参考)16 年 3 月期	178,926	134,882	66,295	69,135

3. 平成 17 年 3 月期の連結業績予想(平成 16 年 4 月 1 日～平成 17 年 3 月 31 日)

	予想売上高	予想経常利益	予想当期純利益	1 株当たり予想当期純利益
中間期	百万円 377,000	百万円 10,000	百万円 6,000	円 -
通期	830,000	26,000	16,000	5,704 10

上記の予想は、当社グループが現時点で把握可能な情報から判断する一定の前提に基づいた見込みであり、実際の業績は今後様々な要因によって当社グループの見込みと異なるかもしれないことをご承知おきください。

[経営成績（連結）の進捗状況に関する定性的情報等]

当四半期における日本経済は、設備投資が増加するなど、着実な景気回復を続けており、今後も、その回復基調は継続するものと見込まれております。

情報サービス産業においては、中期的にマーケットは伸長すると考えられるものの、ソフトウェアに対する投資はおむね横ばい傾向が続いており、お客様による価格低減、納期短縮の要求は一層強まりを見せ、競争激化の流れは止まらない見通しであります。

このような厳しい状況の中、当社は飛躍的な成長を実現するために、平成 17 年 3 月期から平成 19 年 3 月期までの新たな中期経営計画を策定し、当社中期経営方針の明確化を行いました。

「お客様満足度 N0.1」のカスタマーバリューを提供できる企業を目指し、「基礎体力の向上に向けた施策」として、「営業力強化」、「S I 競争力強化」及び「積極的な新商品・サービスの創造」の 3 施策と、これらを支える「販売管理費の効率的な活用」及び「人財が育つ環境づくり」の 2 施策を進めることとしました。

また、「飛躍的成長施策」として事業への先行投資を行うこととし、「法人分野等営業 / 開発パワーの増強」、「先進的ソリューション・サービスの開発」、「次世代基幹システム構築基盤の開発・整備」の内容について具体化を進めました。

当社は、中期経営計画の目標を達成していくため、当社グループの各ビジネス領域に対応した事業運営体制の強化のための取組の一環として、決済ソリューション分野、金融ビジネス分野に関する事業運営体制の強化を目的に「決済ソリューション事業本部」及び「リージョナルバンキングシステム事業本部」を設置いたしました。

「決済ソリューション事業本部」の設置により、既存の決済関連サービスのより一層の拡大を図るとともに、金融機関、行政機関、一般企業、クレジット業界などの様々なニーズに対応した新たな商品・サービスの開拓や社会的インフラの構築などを通じて、ビジネスの拡大を積極的に推進していきます。

「リージョナルバンキングシステム事業本部」の設置については、地方銀行・第二地方銀行向け金融ビジネス分野において、本年 1 月にサービスを開始した当社の主力商品である地銀共同センターを始めとした基幹系システムや先進的な戦略系システム、ならびにビジネス・プロセス・アウトソーシングなどの新たな事業を積極展開する体制を整えました。

また、これまでファシリティビジネス分野で蓄積した電力系特許を活かし、省エネルギー機器の企画・開発をはじめとする環境・省エネルギービジネスを展開する子会社、(株)エヌ・ティ・ティ・データ・イー・エックス・テクノを設立いたしました。この子会社では省エネルギー製品の企画・開発を積極的に行うとともに、当社が得意とする公共系・社会インフラ的なビジネスや環境 I T ソリューションなどとも連携し、環境ビジネスを推進していきます。

さらに、今後の法人分野の事業拡大を目指し、I T を活用してお客様の企業価値を向上させ、お客様の視点で「I T ディレクター^(注)」「C I O サポート」のプロフェッショナルなサービスを提供する専門の子会社「(株)エヌ・ティ・ティ・データ・システムデザイン」の設立に向けた活動を行いました。

当四半期の業績につきましては、システムインテグレーション事業において連結対象会社が拡大したこと及び一部のデータ通信サービスで料金の一括払いを受けたこと、また、その他の事業においてシステムサポート収入が堅調に推移したことから、売上高 195,019 百万円（前年同期比 17.2% 増） 営業利益 11,073 百万円（同 3.5% 増） 経常利益 11,419 百万円（同 18.9% 増） 四半期純利益 7,453 百万円（同 51.2% 増）となりました。受注高につきましては、大規模システム更改の端境期であることから、230,767 百万円（前年同期比 21.2% 減）となりました。引き続き厳しい経営環境の中、年間目標の達成を目指しております。

(注) I T ディレクター

I T を経営戦略に活かすために、I T の専門家としてお客様の視点で I T 戦略立案から実行までをサポートするプロフェッショナルなサービスであります。

[財政状態（連結）の変動状況に関する定性的情報等]

営業活動によるキャッシュ・フローは、一部のデータ通信サービスで料金の一括払いを受けたこと等により、前年同期よりも 31,547 百万円収入が増加し、66,937 百万円の収入となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、設備投資の減少等により、前年同期よりも 32,354 百万円支出が減少し、8,050 百万円の支出となりました。

これにより、当期のフリー・キャッシュ・フローは、前年同期よりも 63,902 百万円増加し、58,886 百万円の黒字となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、2,981 百万円の支出となりました。

これらの結果、当四半期における現金及び現金同等物の期末残高は、前期末に比べ 56,563 百万円増加し、125,698 百万円となりました。

[業績予想に関する定性的情報等]

現時点で中間期及び通期業績予想に変更はありません。

以上